

# 郷土素材の活用を目指して

## 1 郷土素材 (地域素材) のよさ

図画工作科における郷土素材としては、表現及び鑑賞の活動に生かすことができる薩摩焼きや蒲生和紙など、鹿児島県独特のものも含め、子どもたちが生活している地域に存在する自然の材料や人工の材料等ととらえることにする。

このことを踏まえ、図画工作科における郷土素材のよさをまとめると、次のようになる。

(1) 学習を進める際の基盤となるものがすでに準備されており、創造的な表現及び鑑賞の活動を展開することができる。

ア 郷土素材を教材として取り上げることにより、子どもは日々の生活とのかかわりを感じながら学習することができる。また、素材に対する情報を得やすいため、活用の仕方をいろいろ工夫することができ、創造的な表現及び鑑賞の活動を展開することができる。

イ 身近な素材としてよく知っているので、一般的な教材と比較すると、見たり考えたりする視点を変えるだけで興味・関心を高めやすく、意欲的な表現及び鑑賞の活動が期待できる。

(2) 創造的な表現及び鑑賞の活動を通して、図画工作科の基礎・基本を身に付けることができる。

ア 郷土素材を直接見たり、触れたりするなどの体験を通して、そのよさや面白さを感じ取り、自分の表現及び鑑賞の活動に生かし、実感したり納得したりしながら、作りだす喜びを十分に味わうことができる。

イ 身近にある素材なので、親しみをもって活用することができる。その結果、自分の製作や活動に対して自信をもって取り組むことができる。

(3) 郷土（地域）理解を深め、地域の一員としての自覚を高めることができる。

ア 郷土の文化、伝統などに関する理解が深まるとともに、そのよさを実感し、郷土を愛する心情や郷土を大切にしようとする態度を育てることができる。蒲生和紙の作り方を見学し、実際につくるなどの活動が考えられる。

イ 地域の人々の知恵や思いに触れたり、地域とのかかわりを深めたりすることを通して、地域の一員としての自覚を高め、自分が住んでいる地域をよりよくしていこうとする態度を育てることができる。薩摩焼きの工場を訪れ、そこで働く人の話を聞いたり作品を鑑賞したりするなどの活動が考えられる。

## 2 郷土素材 (地域素材) の教材化について

郷土素材の教材化とは、様々な郷土素材の中から、その教育的価値を見出し、図画工作科の目標を達成するのに適しているかどうか十分に検討し、指導計画に位置付けることである。

教材化できる郷土素材の条件とその際の留意事項をまとめると次のようになる。

(1) 教材化できる郷土素材の条件

ア 子どもの発達段階に合致し、題材の目標を達成できる素材であること

イ 子どもたちの興味・関心を高める素材であること

ウ 子どもたちの身近にあって、できるだけ入手が容易な素材であること

エ 取扱い（加工等）が簡単で、後始末が容易にできる素材であること

(2) 郷土素材を教材化するときの留意事項

- ア 題材のねらいや学習の内容を明らかにする。
- イ 取り扱う郷土素材に対する子どもの意識，経験等の実態を把握する。
- ウ 取り扱う郷土素材について，事前に十分な教材研究を行い，子どもが表現及び鑑賞の活動に取り組む時のつまずきや問題点を明らかにする。
- エ 子どもの発達特性を考慮し，指導計画に適切に配列する。
- オ 子どもが安全に造形活動に取り組むことができるように，活動の場，道具，材料等の安全管理及び安全指導に努める。

**3 郷土素材 (地域素材) を活用した学習指導のポイント**

郷土素材を活用した学習指導のポイントとして，次のようなことが考えられる。

(1) 学習のねらいを十分に理解させる。

学習のねらいを理解できないと表現意欲が低下するケースが多いので，グループで郷土素材について話し合わせたり，見学をさせたりして学習のねらいを理解させるようにするとよい。

(2) 子どものイメージを広げる。

子どものもつイメージは，過去の体験量に関連することが多いが，記憶が薄れたり，不鮮明だったりして思い出せないこともある。このような場合は，写真やVTRなどの映像，音声などを媒介としてイメージを広げさせるようにするとよい。

(3) 多様な発想の方向を選べるようにする。

郷土素材は，形や色などが不ぞろいなものが多いので，構造そのものを変化させてみるといった柔軟な発想の例を示して，多様な発想の方法というものを体験させるようにするとよい。